



神社入口

2018/01/31

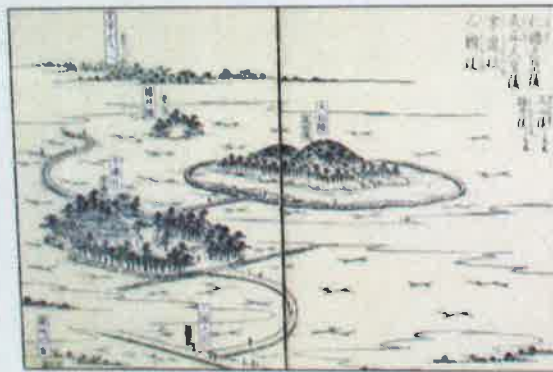


車輛入口

2018/01/31

方違神社

Hochigai Shrine



『和名所図会』(国史博物館蔵)に描かれた江戸時代の方違神社周辺

ゆかりの人々

(方違神社社説より)

- 空海** (774-835)
 延暦四年(806)、空海は遠く旅立つ前に、社の安全を祈願した。
- 平清盛** (1118-1181)
 安徳の乱(1170)、平清盛の命により、方違丸島の島影(神戸市中央区・兵庫区付近)島影の改修が命じられた。
- 徳川家康** (1542-1616)
 元和元年(1615)、徳川幕府が改修の命を受けたとき、今井兼通に命じて丸薬を奉納した。

方違神社の起源は古く、崇神天皇の勅願により創建されたと伝えられています。

このあたりは、摂津・河内・和泉の三国の境に位置しているため、「三国山」「三国の衝」また「三国丘」と称されていました。三国の境界にあるため、方角の無い聖地であると考えられ、古来より方災除けの神として参拝者が絶えませんでした。

奈良時代には、行基が布施屋を設け旅人の休憩場所となるなど、人馬往來の中心となり、平安時代には、熊野詣の通過地点でもあったため、人々は旅の安全を祈ったといわれています。また、明治元年の京都から東京へ遷都の際には、17日間の祈禱が行われています。

現在も、引越しや旅行の際に、全国から多くの方が参拝にいられています。毎年5月31日の例大祭「粽祭」には、悪い方位をはらうという、菰の葉で埴土(境内の土)を包んだ粽を奉納する神事を行っています。

『方違宮縁起』

右の絵は、『方違宮縁起』の巻首にあり、文野左兵衛権佐惟斎朝臣が、享保14年(1729)から翌年にかけて、25歳のときに、方違神社の伝説に基づいて、神功皇后が方違のまつりをとりおこなっている様子を描いたものです。



方違神社周辺マップ

2018/01/31



社務所(左) 本殿(右)



社務所

2018/01/31



本殿

2018/01/31

客殿（今回取りついている現場）



廊下全景



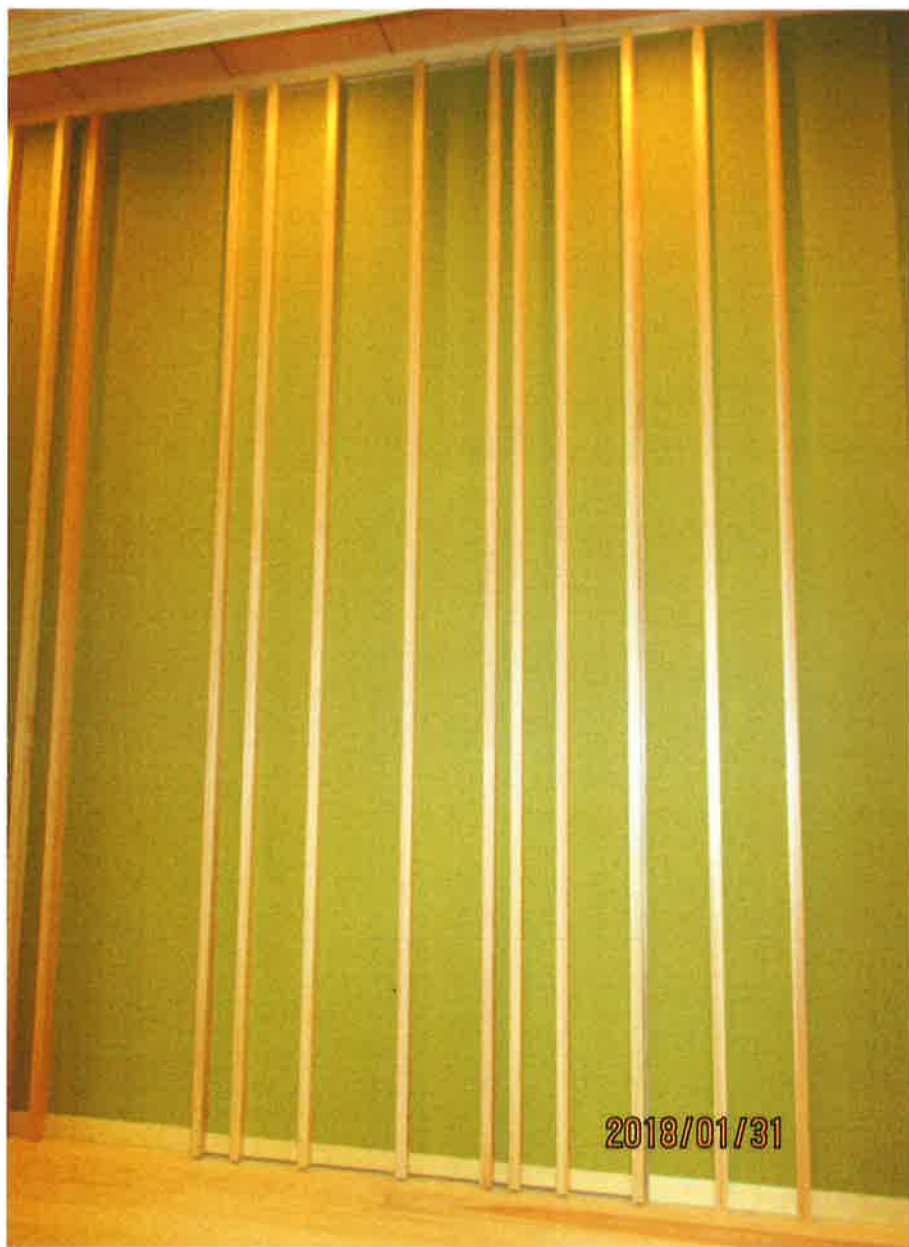
2018/01/31



2018/01/31







B扉 閉時



B扉 開時



B扉開時



B扉 反対側